

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和4年3月7日（月）
- 2 確認箇所
構内南側ヤード（日本海溝津波防潮堤試験施工箇所）
- 3 確認項目
日本海溝津波防潮堤の試験施工箇所の状況

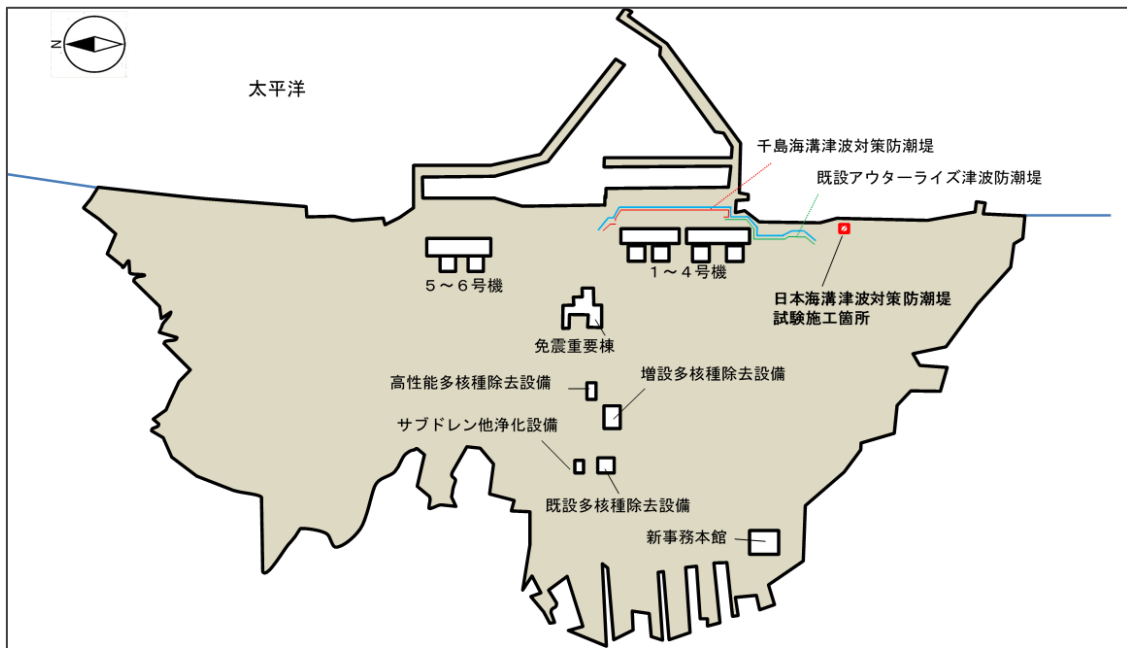
4 確認結果の概要

令和2年4月に内閣府「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」により日本海溝津波の発生が切迫していると評価されたことを踏まえ、東京電力では11.8m規模の日本海溝津波による建屋内滞留水の増加防止及び廃炉重要関連設備の被害軽減のため、防潮堤の設置を進めている。

防潮堤設置工事に伴い、構内南側ヤードで試験施工を実施し、防潮堤工事の施工手順が確認されていたことから、状況を確認した。（図1）

- ・ 構内南側ヤードでは長さ約16m、高さ4.5mの防潮堤の試験施工体が製作されていた。（写真1）
- ・ 試験施工体はテールアルメ[※]工法で製作されており、東京電力によると、盛土材について通常は土を用いているが、環境負荷低減に配慮し、石炭灰とセメントを混合させた人工地盤材料を用いているとのことであった。なお、日本海溝津波防潮堤については、令和3年6月から1～4号機側で工事が開始されており、令和5年下期までに竣工するとのことである。

※ テールアルメ テールアルメ工法は、補強土壁工法で、ストリップと呼ばれる帯鋼と土との間に大きな摩擦が生じることを前提に、盛土材料中に補強材としてストリップを敷設する事によって、鉛直な法面を形成する。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
日本海溝津波防潮堤の試験施工体の
状況①
(北東側から撮影)



(写真1-2)
日本海溝津波防潮堤の試験施工体の
状況②
(南東側から撮影)

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。